



耐久大学だより

第247号
平成31年1月18日発行
広川町中央公民館
編集責任者：國分隆雄

津波避難3原則 ①想定にとらわれない②命を守るために最善を尽くす③周りが逃げなくても逃げる

2019年

謹賀新年



転じて「福」に

広川町教育委員会 教育長 松林 章

「新年あけましておめでとうございます。」

平成最後の新年を心新たに迎えられましたことに心よりお慶びを申し上げます。

また、耐久大学の皆様方には、平素より本町教育の振興・発展にご支援ご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて今年も、4月30日に天皇が退位し、5月1日に新天皇が即位され新元号のもと新しい時代が始まる年になろうとしています。平成の30年間を振り返りますと様々な出来事がありました。なかでも、平成7年には「阪神・淡路大震災」、平成23年には東日本大震災が発生し、そして平成最後の世相を表す今年の漢字は「災」でした。

全国から募集し選ばれた理由は7月の西日本豪雨、8月の記録的猛暑、9月の北海道胆振東部地震、更には相次ぐ大型台風被害など自然災害の脅威を痛感した1年であったように思います。災害の経験から多くの方が「命」の大切さを、また自助・共助の大切さを再認識されたのではないのでしょうか。また、近い将来起こるとされる南海・東南海地震に備え国を挙げた取り組みが動き出しました。

広川町では昨年5月「百世の安堵」＝津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産＝が日本遺産に登録され、さらに10月には世界48ヶ国と国内の高校生を迎え「世界津波の日」高校生サミットを開催しました。「稲むらの火祭り」にも海外の高校生が参加し、濱口梧陵の精神と広川町の良さを知ってもらうことが出来た素晴らしい機会となりました。

平成は特に自然災害に多く見舞われた時代でもありましたが、これまでも人間は賢く自然の驚異と対峙して来ました。決して打ち負かすことの出来ない相手から大切な命を守らなければなりません。私たち町民一人ひとりが濱口梧陵の教えを守り、精神を引き継いでいかなければなりません。表題にも書いたように、「災い転じて福となす」新しい年が希望に満ちた素晴らしい年となることを祈念いたしまして新年のご挨拶と致します。

「明けましておめでとうございます」

耐久大学理事長 梅谷美津世

耐久大学生の皆様、穏やかに新年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

今年も年号が変わる記念すべき年明けとなります。昭和、平成に渡り歩いてきて尚、新年号を体験できる私たちです。耐久大学のみなさん共々に今年も健康に留意されまして、地域社会に根付いた、心豊かな充実した一年となりますよう、ご祈念申し上げます。

本年もよろしくご指導下さい。



「楽しく学ぶ耐久大学に」

耐久大学学長 國分隆雄

皆さん新年あけましておめでとうございます。それぞれの思いを除夜の鐘に託して、心新たに新年を迎えた事と思います。日頃は耐久大学運営につきご協力を戴き大過なく新年を迎えることができましたことを、心から感謝申しあげると共に厚くお礼を申し上げます。さて昨年の国内は7月西日本豪雨で気象災害最悪の犠牲者が出ました、八月は危険な暑さとなり三連続の台風襲来で家屋と農作物に被害があり停電、通信不能等今後の課題や教訓が残りました、北海道の直下型地震発生後のブラックアウトも他人事ではありません。私たちも自然災害に備え考えさせられた一年でした。

広川町では五月に「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～が日本遺産に認定されました。誇るべき地域資源がまた一つ増え、私たちが余生を楽しく学ぶ学園「耐久大学」と共に先人の知識、知恵、文化財を後世に継承して行きたいと考えています。

年頭に当たり耐久大学生、大学院生並びに事務局スタッフの皆様のご多幸とご健勝をご祈念申しあげまして新年のご挨拶といたします。

2019年(平成31年)元旦

耐久大学トピックニュース

耐久中学校が2学期末の12月21日(金)13:30から約1時間、年末の奉仕活動として地域の清掃活動(ゴミ拾いとカーブミラー磨き)を行いました。耐久大学の生徒も奉仕活動のボランティアとして参加しました。



中学生徒ともに道路脇のゴミ拾い



交差点でのカーブミラー磨き

中学生徒ともに奉仕活動を行うことであいさつやたわいもない会話を交わす中で、交流も深まりました。

小学校へ出前授業

1・2月は、広小学校・南広小学校へ出前授業を通して、小学生との交流も深めていきたいと思っています。

